

平成22年 第15回

東京都教育委員会定例会会議録

日 時：平成22年 9月24日（金）午前 9時30分

場 所：教育委員会室

平成22年9月24日

東京都教育委員会第15回定例会

議 題

1 議 案

第104号議案 東京都公立学校長の任命について

第105号議案から 東京都公立学校教員等の懲戒処分等について

第107号議案まで

2 報 告 事 項

(1) 「平成22年度全国学力・学習状況調査」の結果について

委員長	木村 孟
委員	内館 牧子
委員	高坂 節三
委員	竹花 豊
委員	瀬古 利彦
委員	大原 正行

事務局（説明員）	教育長（再掲）	大原 正行	
	次長	松田 芳和	
	理事	岩佐 哲男	
	総務部長	庄司 貞夫	
	都立学校教育部長	直原 裕	
	地域教育支援部長	松山 英幸	
	指導部長	高野 敬三	
	人事部長	岡崎 義隆	
	福利厚生部長	谷島 明彦	
	教育政策担当部長	中島 毅	
	特別支援教育推進担当部長	前田 哲	
	人事企画担当部長	高畑 崇久	
	（書記）	総務部教育政策課長	黒田 浩利

開 会 ・ 点 呼 ・ 取 材 ・ 傍 聴

【委員長】 ただいまから、平成22年第15回定例会を開会いたします。

取材・傍聴関係でございます。報道関係は、M Xテレビほか5社、合計6社から、個人は、1名から取材・傍聴の申込みがございました。また、M Xテレビからは冒頭のカメラ撮影の申込みがございましたが、許可してもよろしゅうございますか。

異議なし 　　　　　では、許可いたします。入室をしていただいでください。

会 議 録 署 名 人

【委員長】 本日の会議録署名人は、瀬古委員にお願いいたします。

前々回の会議録

【委員長】 8月26日開催の前々回第13回定例会会議録につきましては、先日本配りして御覧いただいたと存じますので、よろしければ御承認を賜りたいと存じますが、よろしゅうございますか。 　　　　　異議なし 　　　　　それでは、第13回定例会の会議録については御承認いただきました。

前回9月9日開催の第14回定例会の会議録を机上に配付しておりますので、次回までに御覧いただき、次回の定例会で御承認を賜りたいと存じます。

非公開の決定でございます。本日の教育委員会の議題等のうち、第104号議案から第107号議案までにつきましては、人事等に関する案件ですので非公開としたいと存じますが、よろしゅうございますか。 　　　　　異議なし 　　　　　では、そのように取り扱わせていただきます。

報 告

(1) 「平成22年度全国学力・学習状況調査」の結果について

【委員長】 報告事項(1) 「平成22年度全国学力・学習状況調査」の結果について、説明を、指導部長、お願いします。

【指導部長】 報告事項(1) 「平成22年度全国学力・学習状況調査」の結果について御説明いたします。

全国学力・学習状況調査については、国が平成19年度から平成21年度までは悉皆で調査を実施してきましたが、平成22年度から国の方針が変わり、全国平均約30パーセントの抽出率で4月20日に実施しました。本日は、この全国学力・学習状況調査における東京都の結果がまとまりましたので御報告いたします。

「1 調査の実施概要」ですが、「(1) 調査の対象学年」は、小学校第6学年と中学校第3学年で、例年と変わっておりません。

「(2) 調査の内容」ですが、これも今までの学力調査と同じで、小・中学校とも教科に関する調査として、主として「知識」に関する問題であるA問題、主として「活用」に関する問題であるB問題を、それぞれ国語、算数・数学で実施しました。A問題は、身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容を中心としてまとめた問題で、B問題は、知識・技能等を実生活の場面で活用する力をみる問題でございます。

併せて生活習慣や学習環境に関する質問紙調査を行いました。児童・生徒に対しては生活の諸側面等に関する調査を、学校に対しては人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査を行いました。

「(4) 抽出調査の対象となった学校数、児童・生徒数(東京都公立)」ですが、小学校については、抽出率が13.3パーセントです。国の平均抽出率は25.3パーセントで、東京都は低い抽出率となっております。抽出学校数は、小学校が177校、児童数が12,202名です。

なお、参考に申し上げますと、全国の抽出学校数は、小学校は5,455校で、児童数

が277,000名です。

中学校については、抽出率が24.7パーセント、抽出学校数は160校で、生徒数は17,583名です。全国の抽出率は41.5パーセントで、抽出学校数は4,524校、生徒数が461,000名です。東京都の小・中学校合計での抽出率は17.1パーセントでした。

なお、今回から抽出調査になりましたので、抽出から漏れた学校については、申請に応じて問題を入手し、学校で独自に実施できるようにいたしました。小学校については抽出学校数が177校でしたが、希望校数が620校ありました。中学校についても、抽出校以外で問題を入手して調査を行いたいという学校が269校ありました。

資料2 ページを御覧ください。

「2 教科に関する調査結果の分析と考察」ですが、「(1) 小学校の調査結果」の で各調査の平均正答率をお示ししております。調査は過去4年間行っておりますので、4年分の経年比較ができるようにまとめております。

なお、それぞれの数値の右にある括弧内の数値は、全国の平均正答率です。

平成22年度を御覧ください。小学校の調査結果は、いずれの教科も全国平均を上回っております。この傾向は今までと同様でございます。

「 小学校国語の具体例(国語B 活用)」ですが、小学校の国語において課題となっている例を紹介いたします。国語Bの活用問題で、出題の趣旨は、目的や意図に応じて必要な情報を関係付けて読み、理由を明確にして説明することができるかどうかです。

設問の概要を御覧ください。

5,000円より安いもの、音楽で目覚めることができるもの、といった「決めたこと」に着目して、インターネットを使って集めた目覚まし時計の情報、A、B、Cの中から、適切に読み解いた情報を60字以上80字以内にまとめて書きましょう、という問題で、正答はCになります。理由は、価格が4,200円で5,000円よりも安く、好きな音楽を目覚まし音にして目覚めることができ、「決めたこと」の両方を満たすから、と解答すべきですが、東京都の場合、正答率は66.1パーセントでした。全国の正答率と比較して0.6ポイント高い結果となっておりますが、東京都の小学校のB調査の中では最も低い正答率でした。指導に当たっては、複数の情報を比べて分類・整理して

読み取る活動や文章の構成や表現に着目して読む活動を設定するなどの指導の充実を図っていく必要があると考えております。

「 小学校算数の具体例（算数A 知識）」ですが、「2 のジュースを3等分すると、1つ分の量は、何 ですか。答えを分数で書きましょう。」という問題です。このような種類の問題は、今までの学力調査においても出題されております。正答の3分の2と答えた生徒は、東京都においては46.8パーセントでした。全国の正答率と比較しますと6.6ポイント高い結果となっておりますが、東京都のA調査の問題の中では最も低い正答率でした。解答類型3ですが、3分の1と解答している生徒が19.5パーセントもいて、これは「3等分」という表現のみにとらわれたことによると考えております。

資料3ページを御覧ください。

「2 中学校の調査結果」の「 各調査の平均正答率」ですが、平成22年度東京都の中学校の平均正答率は、国語Aから数学Bまでいずれも全国平均を上回っております。東京都の中学生の平均正答率は、平成21年度、平成20年度、平成19年度と、国の平均正答率とほぼ同じ、あるいはやや下回っている状況でしたが、今年度はすべての平均正答率が全国平均を上回っております。

「 中学校国語の具体例（国語B 活用）」ですが、この問題の出題の趣旨は、表現の仕方に注意して読み、内容について理解することができるかどうかです。今般出題された問題は、「吾輩は猫である」の一節をとっております。これを読んで、下線部「羊の御厄介になったり、蚕のお世話になったり、綿畑のお情けさえ受ける」という部分は、人間が何をどうすることを表したものが、10字以内で書きなさいというものです。

文章を読み、「猫のように一年じゅう同じ物を着通せ」とか、「あんなに雑多なものを皮膚の上へ載せて暮らさなくても」といったところに着目すれば、正答は当然導き出せ、正答例は「衣服を着ること」です。この問題の東京都の正答率は37.8パーセントでした。全国の正答率と比較しますと2.3ポイント高い結果となっておりますが、東京都の中学校のB調査の中で最も低い正答率でした。

「 中学校数学の具体例（数学A 知識）」ですが、一次関数の関係を式で表す

ことができるかを出題のねらいとしたもので、「長さ16cmのひもを使って、いろいろな形の長方形を作ります。長方形の縦の長さを変えると、横の長さがどのように変わるかを調べます。長方形の縦の長さを x cm、横の長さを y cm とするとき、 y を x の式で表しなさい。」という問題です。縦が 1 cm の場合は横が 7 cm となり、縦が 2 cm の場合は横が 6 cm になることに着目して、数式を問う問題です。

正答は「 $-x + 8$ 」ですが、東京都の平均正答率が24.8パーセントで、全国の正答率と比較すると1.9ポイント高いのですが、東京都の中学校の数学A調査の中で最も低い正答率でした。着目しなければならないのは、無解答が28.3パーセントもあったということです。指導に当たっては、問題場面を図に表すなど、工夫して指導を行っていく必要があると考えております。

資料4ページを御覧ください。

例年、全国学力・学習調査においては、生活習慣や学習環境に関して児童・生徒や学校に調査していますが、今年は4年目となりますので、全国と比べて東京の特色が良く表れているデータを掲載いたしました。

「3 生活習慣や学習環境等に関する調査結果の概要」の「(1) 児童生徒に対する調査(児童生徒質問紙)」ですが、1つ目は、月曜日から金曜日まで午前7時より前に起きる児童・生徒の割合をグラフで表したものです。2つ目は、月曜日から金曜日までに家の人と普段、夕食を一緒に食べているかを調査したものです。3つ目は、家の手伝いをしているかを調査したものです。4つ目は、新聞やテレビのニュースなどに関心があるかを調査したものです。

特に午前7時より前に起きる児童・生徒の割合は、小学校、中学校とも年々高まってはおりますが、全国と比べると割合が低いということです。「家の人と普段、夕食を一緒に食べていますか。」も同様の傾向にあると考えております。「家の手伝いをしていますか。」というのは、全国とほぼ同等です。ただ、「新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか。」は、東京都の児童・生徒は全国よりもかなり数値が高くなっております。小学校で71.6パーセント、中学校で67.4パーセントの生徒が、新聞やテレビのニュースに関心があると回答しております。

資料にはお示ししておりませんが、新聞やテレビのニュースに関心があると答えた

児童・生徒と関心がないと答えた児童・生徒の平均正答率を比べると、一番大きいところで20ポイントの差があります。新聞やテレビのニュースに関心があると答えた児童・生徒の国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学Bとも、それぞれ約15から20ポイント高くなっております。小学校も中学校も同様の傾向でございます。

資料5 ページを御覧ください。

「(2) 学校に対する調査(学校質問紙)」ですが、こちらは例年、資料としてまとめております。放課後の補充的な指導をしているかについて、小・中学校で東京都と国を比較したのですが、ほぼ同様の傾向で、放課後の補習授業は結構行われております。東京都は、国よりは若干高い割合になっております。

ただ特記すべきは、で、土曜日の活用では、小学校は、国が平成22年度3.0パーセントでしたが、東京都は22.8パーセントの学校が補習を行っております。中学校も、国が平成22年度7.3パーセントでしたが、東京都は29.4パーセントの学校が土曜日の補習を行っております。東京都は、全国でもかなり高い率で土曜日の補習を行っているということでございます。

ちなみに、平成22年1月14日付けで、小・中学校において土曜授業を実施できる旨の通知をいたしました。現在、小学校においては125校、中学校においては74校で正規の土曜授業を行っております。

また、平成22年度から、新たに土曜授業支援事業という取組を行っております。小・中学校において、土曜日に外部人材を活用して補習を行う学校には都から補助をするという取組を行いましたところ、現在、5区市1町で小・中学校合わせて23校が東京都の支援事業を活用して土曜授業を行っております。

「長期休業期間の利用について」ですが、東京都の数値が国と比べて非常に高くなっております。長期休業中に補習授業を行っているのが、小学校では、国は58.6パーセント、東京都では84.2パーセントです。中学校も同様の傾向で、東京都は、全国と比べてかなり高い率で長期休業期間中に補習を行っております。

資料6 ページを御覧ください。

「4 調査結果に基づく授業改善の視点」ですが、特に今回は「(2) 読み解く力を高める指導の工夫」ということで、「文章や図表、グラフ等から、解決に必要な

な情報を正確に取り出す活動」、「取り出した複数の情報を、相互に比較したり、関連付けたりして読み取る活動」、「読み取った内容を既存の知識や技能、経験と照らしながら、意図や背景、理由を推論して解決する活動」、この3つの活動を読み解く力を高める活動とっております。

こうした視点に立ち、「5 東京都教育委員会の今後の方策」の「(4)平成22年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』の実施」として、「読み解く力に関する調査」を実施してまいります。この調査は、小学校第5学年と中学校第2学年、全校を対象とした²悉皆調査で行うもので、国語、社会、算数、理科、英語、それぞれの教科から出題する予定でございます。実施日は平成22年10月26日です。

「(3)発展的な学習を推進するための教材・指導法の開発」ですが、教育委員会で様々御議論いただいた中で、習熟度の高い生徒のための教材を開発し、伸びる生徒はもっと伸ばすべきだという御指摘をいただきましたので、小学校の国語、社会、算数、理科についての開発を行っており、平成22年度内に作成を完了し、平成23年度から活用する取組を現在行っております。中学校の5教科については、平成23年度に開発を行う予定でございます。

「(5)研究推進校を中心にした施策の展開とその成果の全都への普及・啓発」ですが、教育委員の皆様方から、習熟度別授業の実証研究を行わなければならないのではないかというお話がございましたので、現在、習熟度別少人数指導の指導法の研究も行っております。

説明は以上です。

【委員長】 ただいまの説明に対して、何か御質問、御意見はございますか。

【高坂委員】 今回は、悉皆調査ではなくて抽出調査ですね。抽出調査で、全体との評価で大きなブレはなかったのですか。意図的に優秀な学校を選んでいるなどということが全国的にあったのかというのが一つ目です。

2つ目は、正答率が平成22年度は平成21年度よりも下がっているところが多いのですが、問題が難しかったから減ったのでしょうか。おおむね同じレベルの問題を出しているにもかかわらず下がっているのでしょうか。

3つ目は、東京都は全国平均と比べたら良いということで、特に資料3ページの上

の表では、平成21年度まではどちらかと言うと悪かったのが、逆転したというか少し良くなっています。これは、政策的にいろいろな支援をしてきたことが結果として表れたと見て良いのでしょうか。あるいは抽出の仕方によって違うのでしょうか。その辺をどのように判断されていますか。

それから、新聞やテレビのニュースなどに関心がある児童・生徒とない児童・生徒で平均正答率に20ポイント前後の差があるという話でしたが、新聞やテレビのニュースなどに関心のあるパーセンテージが下がっているのを、どのように支えていけば良いのでしょうか。

最後に、土曜日の利用については、東京都はかなり他府県に先駆けていろいろな施策を行っているのです、その効果があったのでしょうか。

【指導部長】 最初の御質問ですが、国の抽出は、都道府県教育委員会等に事前に調整を依頼するというのではなく、国が直接調査する学校を選んでおります。小学校、中学校いずれも、東京都教育委員会は全く抽出校の選定について把握していない状況でございます。これは各道府県とも同じです。したがって、抽出する学校を教育委員会に任せてという状況ではなく、国は乱数表等を使い抽出をしたということで、意図的に優秀な学校を選んだといったことはないと考えております。

2点目ですが、小学校、中学校とも国語Aから算数・数学Bまで4つの種類がございますが、今年度を含め過去4年間の問題数は、さほど変化はございません。質についても、基本的には平成19年度から平成22年度までおおよそ同等の質の問題を国は作成し、実施していると聞いております。新聞紙評等によりますと、今年は若干易しかったのではないかとか、あるいは難しかったのではないかというような識者のコメント、あるいは学校サイドからのコメント等もあることは事実でございますが、国としては、毎年、同程度の問題を出していると考えております。

3点目ですが、確かに、高坂委員の御指摘のように、新聞やテレビのニュースなどに関心がある児童・生徒の割合は、小学校、中学校とも、平成21年度と比べて若干下がっております。特に中学校での減りは少し気になるのですが、理由は定かではございません。ただ、こういった下降傾向がもし今後続くようであれば、好ましいとは思いませんので、東京都教育委員会においても、読書あるいは新聞媒体等も含めた読解

力について、来年度以降もきちんとした対応を行っていきたいと考えております。

最後の御質問の、土曜日と長期休業期間中の利活用については、高坂委員の御指摘のように、東京都はかなり早くから支援を行っておりますので、その効果の表れであるかと考えております。

【高坂委員】 一つ確認したいのですが、この調査報告の対象は全部公立の学校ですか。私立は入っていないですね。

【指導部長】 はい。

【内館委員】 私も今の平均正答率が大変気になったのですが、例えば国語Aですと、平成20年度が68.5パーセントで、平成22年度は84.5パーセントです。算数Bですと、平成19年度が65.7パーセントで、平成22年度は52.7パーセントです。まして国語Bは、平成21年度の53.6パーセントから平成22年度は79.5パーセントに上がっている。もちろん難易度というのは、その都度、どうしようもないことですが、これは数字としてめちゃくちゃだと思います。そう考えると、私は、平均正答率の数字というのは、実は何も当てにならないのではないかという気がするのですが、いかがでしょうか。これが何かの手掛りになりますか。

【指導部長】 内館委員の御指摘のとおり、平成22年度は、平成20年度、平成21年度と比べても平均正答率が、東京都、全国ともに高くなっております。新聞紙評等では、問題がかなり易くなったのではないかと指摘されておりました。ただ、文部科学省からは、難易度についてはきちんと調整していると承っております。この平均正答率をどう見るかについては、確かに内館委員の御指摘のとおり、これがすべてのデータということではなく、我々は誤答分析をきちんと行っていくべきであると考えております。A問題、B問題とも、基礎・基本と活用の問題の誤答をきちんと確認し、「東京ミニマム」に今後また反映させていく指導をどのように行っていけばよいか大きな眼目と考えております。

【委員長】 問題なのは、^ひ悉皆か抽出かということです。統計学者は、両者は比較できないと言っています。つまり平成21年度は^ひ悉皆、平成22年度は抽出ですので、比較は難しいということです。

センター試験も大学入試もそうですが、同じような難易度の問題を出すことはなか

なか難しいようです。センター試験の平均点も、毎年ばらついています。できれば悉皆で行っていただきたいのですが、政府が予算を削りましたから仕方がないですね。

【竹花委員】 確かに悉皆と抽出とで差がありますので直に言えないかもしれませんが、正答分布図のようなものはありますか。

【指導部長】 今後、一つの調査報告書としてまとめ、分布等についてもお示ししていく予定でございます。例年作成しておりますが、今日は、お手元にはまだお示しできておりません。

【竹花委員】 できたら平成19年度以降のもの比べてみて、教育格差と言われていた状況がこうしたものにも表れているのかを少し見てみてください。東京都が行っているミニマムという考え方は、どの子供たちにもせめてこれだけはというを目指していますので、そうしたものの底上げをしていけば、平均点も上がっていくのは当然のことです。小学校で上がれば、中学校でも上がるということにもなろうと思います。そういう点で、真ん中は少ないけれども高いところと低いところは結構多いというのか、そういった点を少し分析していただきたいと思います。

それから、読解力にもう少しきちんと焦点を当てて指導していこうというのは、基本的に正しい方向だと思いますので、是非ともよろしく願いいたします。

【委員長】 PISAも、分布を見ると左、即ち低得点の方向に寄っています。できる子供達が減って、できない子供達が増えているというのが最近の傾向です。格差については、悉皆調査を行っているときに全国のデータを見て、日本は大都市部とそうでないところとの差が少ないと思い、外国でもそういう話をしたのですが、東京都の中だけを見るとかなり格差があることがあり、驚いたのを憶えています。この点については相当頑張っていないといけませんね。

【竹花委員】 東京都の中でもいろいろ状況があるのであれば、せめてそれは区市町村の教育委員会にはきちんと示していないといけないと思います。そうすると、教育の重点が変わってくるのだらうと思います。そのいろいろな状況について、私ももう少しクリアに知っておきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【指導部長】 区市町村は自分の区市町村のデータがありますので、全国との比較はできる状況になっております。

【委員長】 他の区市町村のデータ分らないのですよね。

【指導部長】 他の区市町村のものは分かりません。

【委員長】 新聞やテレビのニュースはやはり大切だと思います。学校でも積極的に興味を持たせるような取組をしていく必要があると思います。日本では、ニュースに関心のある大人が少ないというデータがあります。実はそこに問題があるのですが、大人のことは言っていられないので、子供に是非興味を持ってもらうように、学校で鋭意取組を進めるべきだと思います。

【指導部長】 都立高校の場合は、読書活動推進校を平成22年度から指定し、様々な媒体のものを読んでいく取組を開始しました。

【委員長】 よろしゅうございますか。 異議なし それでは、本件については報告として承ったということにさせていただきます。

参 考 日 程

(1) 教育委員会定例会の開催

10月14日(木)午前10時

教育委員会室

(2) 全国都道府県教育委員会連合会 委員長協議会理事会

10月12日(火)午後2時

アジュール竹芝

【委員長】 それでは、今後の日程について、教育政策課長、お願いいたします。

【教育政策課長】 今後の日程について御案内申し上げます。

次回の教育委員会定例会でございますが、10月14日木曜日午前10時から、場所は教育委員会室を予定しております。

次に、全国都道府県教育委員会連合会の委員長協議会理事会が、10月12日火曜日、アジュール竹芝で開催されます。木村委員長に御出席をいただきます。

さらに教育委員の視察でございますが、10月7日木曜日に都立特別支援学校と区立小学校の特別支援学級の視察をお願いしたいと存じます。木村委員長、内館委員、高坂委員、竹花委員、瀬古委員に御出席いただく予定でございます。場所等の詳細につ

きましては、また御案内申し上げます。

以上でございます。

【委員長】 よろしゅうございますか。
続き非公開の審議に移ります。

異議なし

それでは、引き

(午前10時10分)